

# 貨客船平野丸の歴史と世界のランチ

日時:2018年10月23日(火) 天候:朝小雨のち曇り 9000歩 約6km

集合:JR根岸線関内駅北口 10時

コース:関内駅→日本郵船歴史博物館→横浜税関→JICA横浜・ランチ→赤レンガ倉庫→像の鼻パーク→関内駅(解散)

参加者:吉越(L) 平嶋 大平 伊藤真 小野里 青松秀 佐藤繁 森川 伊藤美 小島 山川 平林勝 志村 桑原 桑名  
中林 加納富 長廣 脇坂 吉岡 内海 計21名

長年釣りを趣味にし、“浜ちゃん”並みに海へ出ている身としては、船・港と聞くだけで今でも血が騒ぎます。今回はそれらにプラスして世界のランチが食せるとあっては、参加しない理由が見当たりません！今回歩くエリアは、都心プロムナード構想に基づき、歴史と同居する街づくりから生まれた「みなとみらい21地区」です。最初に見学した日本郵船歴史博物館では、館長から戦前戦後を通じての造船の歴史と、太平洋戦争で徴用された貨客船の悲惨な状況を聞き、当時の人々の苦労を改めて知ることが出来ました。今は豪華客船での船旅がブームになっていることを思えば隔世の感があります。「愚者は経験に、賢者は歴史に学ぶ」といいますが、愚者とはいえここは歴史に学びたいものです。横浜税関では開港当時の様子や、押収された偽ブランド品等も展示され、重要な税関の仕事を実感しました。JICAでは世界のランチを味わい、ここが日本であることを一瞬忘れるような時を過ごし、食後は赤レンガ倉庫から像の鼻パークを経て、関内駅へ向かい解散となりました。

この日は、午後になって薄日が差す程度で11月下旬の気温でしたが、肌寒いなか皆さんお疲れ様でした。

<フォトレポート 小島>



JICA 企画展示室前。“旅して、恋して、ハッとして”・・・「妄想世界旅行」から「現実」へ戻ってきました！？



関内駅北口改札前。外は雨がパラパラ。大丈夫か・・・



さすが横浜、案内板は完璧です。さあ出発しますよ。



本日のリーダーは吉越会長。



久しぶりの平林勝さんも。



空き地がないので歩道を借りて。



日本郵船歴史博物館に入ります。



館長から詳細な説明を聞き皆さんお疲れの様子。



入館者50万人達成で記念品を頂きました。



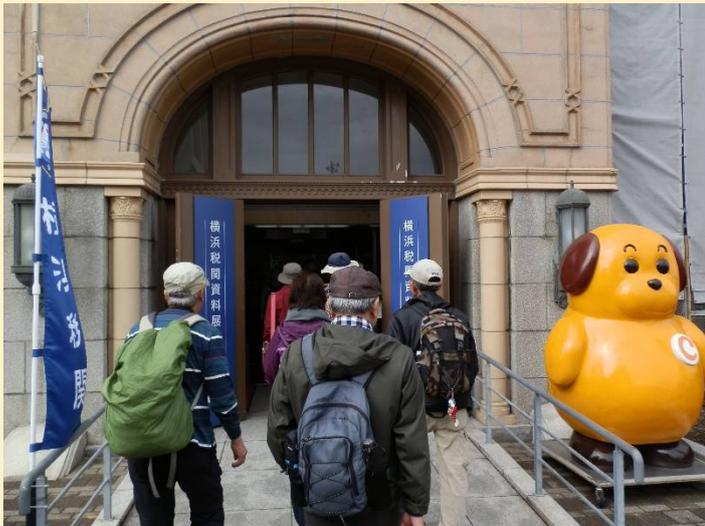
平日のためか人通りもまばらな県警前に行く。

## <悲劇の貨客船平野丸>

1908年に長崎市の三菱造船所で造られた日本郵船の貨客船。第一次大戦末期の1918年(大正7年)10月1日、「平野丸」は、輸送船16隻から成る護送船団に加入して、アメリカ海軍の駆逐艦「スタレット」の護衛の下、リヴァプールから日本への復航に出航した。10月4日午前5時15分にアイルランド南方沖130km、北緯51.2度 西経7.0度付近を日本への経由地であるケープタウンに向けて航行中、「平野丸」は U ボート(潜水艦)による攻撃を受け、右舷2番船倉と右舷中央機関室に魚雷計2発が命中して、7分後に沈没した。このとき「平野丸」には乗客97人・乗員143人が乗船していたが、救助された生存者は乗客11人・乗員19人のみで、ヘクトル・フレーザー船長以下210人が死亡した。これは第一次世界大戦中に戦没した日本商船33隻(計135,000総トン)の中で最大の死者数であった。夜間強風下で短時間に沈没したため救命ボートを降ろすことができなかったこと、海水温が低かったことが人的被害を大きくした。

なおこれらの犠牲者を悼む慰霊碑が、ウェールズ南部で地元住民の手で再建され、沈没から100年目に当たる10月4日に除幕式が行われた。遺体は当時手厚く葬られたが、木の墓標が朽ち果てたため、地元住民が同じ場所に再建をした。

(資料より抜粋)



横浜税関に入る。「白い粉」持ってないでしょうね？



「運上所」とは今でいう税関。まさにこの場所です。



開港当時の横浜港。その賑わいが分かりますね。



スイスとの通商もあった？ (これは知らなかった)



密輸の動物や偽ブランド品も展示。



入館無料ですが見応えがあります。



資料等も豊富で勉強になった！



ランチ場所のJICA（国際協力機構）へ。



3階ポートテラスカフェで世界のランチを食べる。



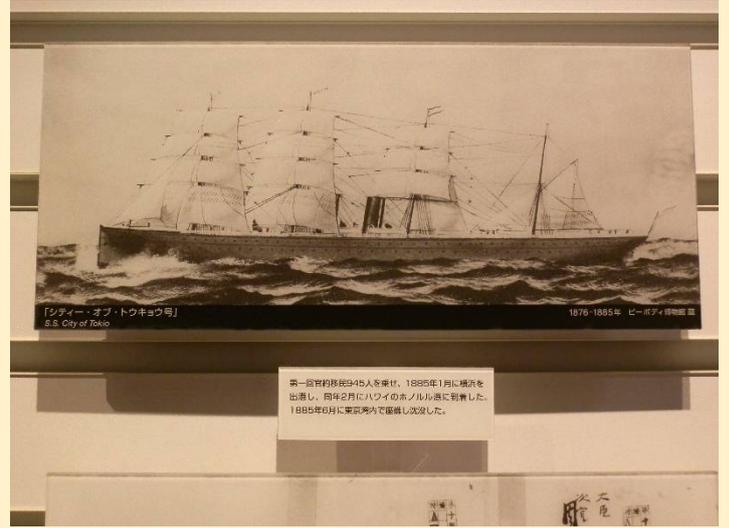
### <ポートテラスカフェ>

JICA横浜にあるレストランで一般も利用できる。世界の料理が食べられ、グランドメニューをはじめ週変わりや日替わりランチもある。平日に限り食事の後はコーヒー・紅茶の無料サービスあり。ランチは11:30~14:00、ディナーは17:30~21:00。皆さんはそれぞれ食べたい料理とともに、アルコールを飲む人もいて、すでにアフターを兼ねていたのかも。（以上PRでした!）

←私が食べたランチは、グリオツツというハイチの料理で、豚肉のオレンジ煮込み。あっさりとした味付けで、野菜・スープ・デザート付でした。ライスが硬かったが、何か混ぜてあったような...



食後は2階にある「海外移住資料館」を見学。



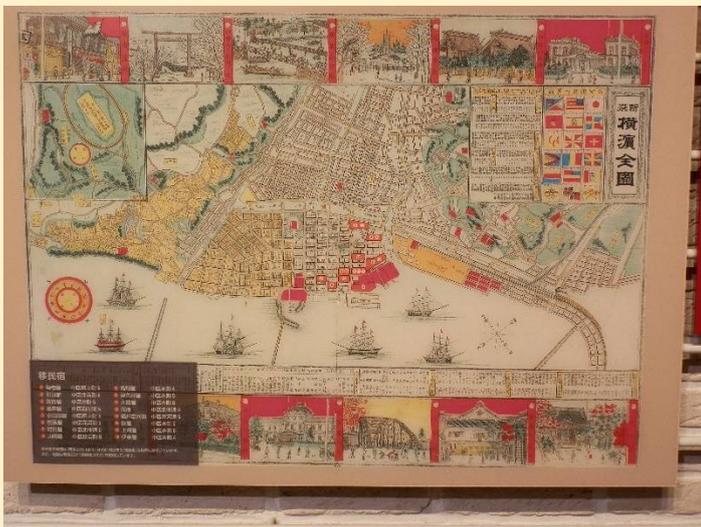
最初の移民船「シティー・オブ・トウキョウ号」



移住に際し船に持ち込んだ手回り品の数々。



移民の大家族。現地で成功した一例でしょうか。



横浜港には移民者のための「移民宿」があった！



最後の移民船「にっぽん丸」。最初の船とは大違い。

### <海外移住の始まり>

日本人の海外渡航は150年前の明治維新(1868年)とともに始まった。当時の日本は、近代化に伴う急速な社会変化に見舞われた結果、農村部を中心に余剰労働力が生まれ、国内および海外へ移動する出稼ぎ労働者が現れた。1968年、横浜在住のアメリカ商人Y・バンリードは、約150人の日本人労働者をハワイの砂糖プランテーションへ、その他の40人をグアムへ送った。これが日本からハワイへの集団移住の始まりとされます。この後、明治維新により江戸時代は終わり、彼らのはちに「元年者」と呼ばれた。

(Webサイトから抜粋)



円形歩道橋を下る。これでは食後の運動にもならない。



赤レンガ倉庫は平日で曇り空のせいか人も少ない。



レンガ広場は何かのイベントなのか準備中でした。



横浜税関の「クイーン」の塔」遠望。改修工事中。



横浜三塔。外装工事の覆いで良く見えませんが赤レンガ倉庫側から見たところです。



シルクセンター前交差点を右に。



県庁前銀杏並木の紅葉はもうすぐです。



関内駅南口には港町魚河岸跡の碑が。(初めて見た)



歩数と距離を確認しここで解散となりました。

※この日はゆったりコース、見学が主でしたがお目当てはJICAのランチ。それを目当てに21名が参加したのも頷けます！ランチセットを食べた人、おつまみを主にビールやワイン傾ける人と、それぞれ“優雅”なランチタイムを過ごしたようです。それにしても弁当なしは楽ですね。さて次回のランチ付ウォークは何処になるのか今から楽しみです。

#### <今日の一言>

日本郵船歴史博物館では、時間をかけて館長から詳しい説明を聞き、平野丸の件をはじめとして日本の船舶の歴史と、国内外に果たした役割とともに、戦時中に軍に徴用された貨客船の運命も学びました。私自身、海軍航空隊に興味があつてこれまで数多くの実録手記を読んできましたが、民間の船舶を利用して遥か南方地域の島々に、兵隊や糧食を運ぶ途中で航空機や潜水艦の攻撃で、多くの人命が南方の海底に消えていったことを思う時、時代の流れを無視して大艦巨砲主義にこり固まった大本営の判断は、まさに殺人行為に等しかったのではと思わざるを得ません。館内のパネルに印された艦船の数は、そのまま船と共に運命を共にした人々の巨大な墓標でもあります・・・(合掌) ※なお、館内は撮影禁止のため写真は撮れず。

END